



# クラブ 会報

## CLUB BULLETIN (WEEKLY)

### 鶴岡ロータリークラブ

### TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30-13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
	電話	0235 225775

会長	三井	健助
幹事	山口	篤之助
会報委員	新穂	光一郎
	田	幸雄
	安藤	定助
	嶺	光吉

# No. 1011 1979.6.12 (火) (晴) No.48

### ウィンター紹介

陳宗耀君	一中港区R.C		
阿部隆君	自動車修理	温海R.C	
内田智譽雄君	相互銀行	齋藤吉雄君	管材販売 } 鶴岡西R.C
林権之助君	電気器具配布	羽根田正吉君	

### 会長・幹事報告

山口 篤之助君

#### 1. 会報到着

(1) 台中港区R.C (2) 塩釜R.C (3) 東京R.C (4) 鹿児島西R.C

#### ◆ 会員スピーチ アメリカに於ける仏教の発展 藤川了胤君

私が米国サンフランシスコの桑港寺の主任開教師に任命され、日航001便で離日したのは昭和48年11月4日のことでありました。

# REACH OUT...

## 手をさし伸べよう...

海外開教師の任命を受けた時もまだ他人事の様にしか意識できなかった私も、機上の人となり乗客の60%以上の人々が外人であるという現実接したとき、言い知れぬ興奮と一抹の不安の念を禁じ得ませんでした。

海外開教にかける私の情熱と期待による興奮と、まだ見ぬ異国の土地と人々に対する畏敬の念ともいべき感情がそれでした。機上の人となること約10時間、機長のアナウンスによって眼下に金門橋を初めてまのあたりにした時のあの胸の高まりをいまだに忘れ去ることが出来ません。

私が赴任致しました桑港寺はサンフランシスコの日本人町の中心部にある50年の歴史を持つ日系人の為のお寺であります。どうしてわざわざ日系人のお寺という風に限定をつけたかと申しますと、今日のアメリカにおける仏教伝道の実情を語る時、どうしても2つの流れを説明しなければならないからです。

その1つは咸臨丸が初めてアメリカ大陸に足跡を残して以来、多くの日本人がアメリカに移住致しました。そのほとんどの移住先がハワイであり、そしてカルホルニア州（加州）でありました。ほとんどが関東以西の人々、特に広島・和歌山・福岡・鹿児島でしかも農家の2男・3男の人々でありました。彼等は日本にいたのでは、たいした暮らしが出来ないとフンギリをつけた気骨のある人々で、その青春の熱き血を異国の土地の開拓に夢を馳せて渡米した訳であります。しかし現実には決して甘いものではなかったのです。言葉の違い、習慣、文化の違い、そして何よりも人種差別による迫害と屈辱を彼等はいやという程味わわされたのです。

しかしそういう偏見や差別の下で彼等はまさに牛馬の如く働きました。しかしその手当ては彼等の労働力に決して見合う物ではありませんでした。しかし彼等は黙々と働きました。そういう彼等がせめて2週間に一度、いや1か月に一度でもいい、同胞が集まり、なぐさめ合い励まし合い、飲んだり、食べたり、そして遠い故国の日本の話しを誰れに遠慮もせず出来る自分達だけの安息出来る場所を持ちたいと願う様になっても決して不思議ではなかったのです。日系人同胞の集会所であり、悩み事相談所であり、明日を生きんが為の精気を養う場所を彼等は少ない収入の中から出し合って各地に作っていったのです。彼等は信じ難い最低条件のもとで一生懸命働きました。2週間に一度1か月に一度この集会所で同胞に会えるということを心の支えにしながら……。

数年の月日が流れ、どうにか人並の生活を営める様になって来た頃、彼等の仲間には親の訃報に接する者も現われて来たのです。遠い異国の地にあって親の死に目にも会えなかった人々は、どうにかして親や先祖の供養をしたいそう念頭する様になったのです。そして今まで自分達が心のよりどころにしていた集会所が宗教的色彩をもつ日本式の寺に変わっていったのです。そして彼等はその寺の住職を日本の各宗の本庁に求めたのです。米国の仏教寺院はほとんどこの様な変遷を経て今日に到っております。ですから日系人にとりましてお寺とは宗教的行事を厳修する場所であると同時に日系同胞が作りあげたいわば白人世界に対する砦でもあった訳です。

米国土にはこの様に日系人を主体としたお寺が百ヶ寺程ございます。その7割が真宗西本願寺派のお寺であります。これは日系人の数が真宗教勢の強い広島・九州の出身者によって数多く占られていた為と思われます。今日これらお寺で各宗の開教師が布教活動を展開しておる訳であります。ちなみに私が住職をしておりました桑港寺の活動状況は毎日曜日前午10時より日系3世・4世

の子供達を対象にした英語によるサンデースクール、1時より日本語で1世・2世を対象にした日曜礼拝、水曜日と金曜日の夜7時より参禅会を1時間、木曜日には1世の婦人に御詠歌の指導をしております。

なお特筆しなければならないことはこの様な日系人のお寺では異民族が檀家として入ることを今でも心よしとしてないことであります。これは日系人が戦前・戦中・戦後を通して味合った痛烈な心の痛手を未だ拭ぐい去ることが出来ず、自分達が建てた城に異民族が入って来ることを生理的に受けつけないのである為です。特に戦中日系市民が収容されたコンセントレーションキャンプ（強制収容所）での生活振りは言語を絶するものがありました。ある日突然日系人は生命安全確保という名目で家・財産を国務省の管理下に置かれ、老若男女、病弱を問わず辺地に建てられた強制収容所に収容されたのです。自動少銃を持った兵士に見張られ、まるで牛馬の住むような粗略な収容所で彼等はジャップと呼ばれ、屈辱な生活を強いられました。ある者は脱走しようと殺され、またある者は最後まで日本に忠誠を誓った為ひどいリンチを受けたのです。しかもこの様な状況下におきながらも2世の男子には、アメリカ国民の義務執行を課せヨーロッパの一番の激戦区の最前戦に次から次へと送ったのであります。広島・長崎の市民にとって原爆の爪跡がまだ痛々しく残っている様に日系人1世・2世にとっても彼等の心のなかでは戦争の陰影がまだ残っておるのであります。

これに対しましてアメリカ人（白人が9割）が主流をなす寺院がいくつかございます。禅センターと呼ばれるお寺がそれ等であります。お判りの様に坐禅を根本第一義にした修行道場であります。御承知の様にアメリカはキリスト教国でございます。日系人、並びに中国人系によって信仰されていたとはいえ仏教はアメリカに於ては、ほんの一握りの移民族が信奉している宗教に過ぎなかったのであります。しかし戦後東部に於て臨済宗の鈴木大拙師、近年に至っては西部の鈴木俊隆師（桑港寺先々住）の御活躍によって禅は大いに流布されたのであります。アメリカがベトナム戦争に行きづまりを感じ始めた1960年代、アメリカ人の若い世代のなかには物質文明・西洋思想に行きづまりを感じはじめた人々が出始めました。御承知の様に西洋思想は物の存在を第一義的に考える存在論がその主流をなしておるわけでありまして。

これは結果として西洋で産業革命を成功させた様に物質を生産したり創造するのではなくてはならない思想の源であります。この思想の恩恵によって我々は今日の科学の発展、物質文明の発展のなかに生活することが出来る訳であります。近年百年の間、この繁栄の最たる恩恵を受けたのがアメリカ合衆国でありました。生産力の向上による繁栄と富はアメリカ社会を大いに潤したのであります。しかしその結果として生まれてきた権力主義的発想や公害の発生等により、人間の真の幸福とは何んぞや？ というクエスチョンを持つ若者がベトナム戦争を機縁に非常に多く表われてまいりました。

彼等は“物”を第一義に考える西洋思想から“心”を第一義に考える東洋の仏教思想、とりわけ西洋思想には全くなかった坐禅の世界に異常なまでの魅力を感じたのです。これらの若者達が鈴木俊隆師のもとに集まり桑港寺では一時昼夜数百人の参禅者による参禅会が開かれたのです。しかし前にも述べました様に、日系人とアメリカ人との微妙な感情の対立から、彼等は独立して坐禅を根本とする専門道場を建てたのです。これらが禅センターと呼ばれる道場であ

ります。このなかで彼等は朝4時の振鈴（起床）から9時の開沈（就寝）まで如法に弁道修行しておるのであります。それはあたかも750年前、宋より帰朝した我宗の開祖・道元禪師を中心に諸仏様達が一心不乱に坐禅三昧をなされた様に……。

加州の知事であるブラウン・ジュニアは、この禅センターを評してカルホルニアのポリテクカルマインドはサクラメントにそしてアメリカ人のスピリチュアルマインドは禅センターにみることができると絶賛しております。

彼等のひたむきな姿をみていると私は将来禅の心がアメリカより日本に逆輸入されてくるのではないかと危惧をおぼえるのであります。

台中港区R.C 陳 宗耀 君

鶴岡ロータリークラブにメークしたのは、これで3回目ですが今回は気軽にメークに来た心境です。東京まで来て、どうしても鶴岡に来たくて、こちらに来て皆様とお会いしたい心境で参りました。皆様とお会い出来て本当に良かったと思います。

貴クラブの20周年記念式典に私は無断欠席し、おわびしなければなりません。私の仕事は漬物関係で100%貴国に輸出しています。数年貴国と台湾と業者間において年1回の座談会を開いております。いろいろ貿易についてとりあげ、協議し、親交を深めて来ましたが、年1度の座談会では解決すべく問題がたくさんあります。

去年の連合会は両国から11名の委員を選出して日華貿易振興会を作り、東京、台北と交互に開催しています。今年台湾の梅が暴騰して、貴国の業者から何んとか打つ手はないかと、それで委員会を4月に繰り上げて欲しいと申し入れがありまして、台北で開催することになりました。その日が4月20日、21日に開催し、その代表として出席のため無断欠席したわけです。当クラブの会員、家族が大勢押しかけ大変身にあまる歓待を受け大変よろこんで帰国されました。厚く御礼申し上げます。

出 席 報 告

本日の出席	会 員 数	70名	欠席者	早坂(源)君、早坂(徳)君、飯白君、市川君、黒谷君、三井(徹)君、三浦君、中野君、板垣(広)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君、鷺田君、笹原君、菅君、津田君、富樫君、金沢君、宮沢君、石原君
	出 席 数	49名		
	出 席 率	70.00%		

前回の出席	前回出席率	79.00%	メア 1ツ クラブ	阿部(襄)君一山形北R.C 野村君一酒田東R.C 佐藤(衛)一温海R.C 笹原君一仙台R.C 風間君、鷺田君、新穂君、上野君一 鶴岡西R.C 三井(徹)君一海外R.C
	修正出席数	58名		
	確定出席率	82.86%		